

竹原管内景況調査

3月の景況DIは、製造業、非製造業共に悪化

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和6年3月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

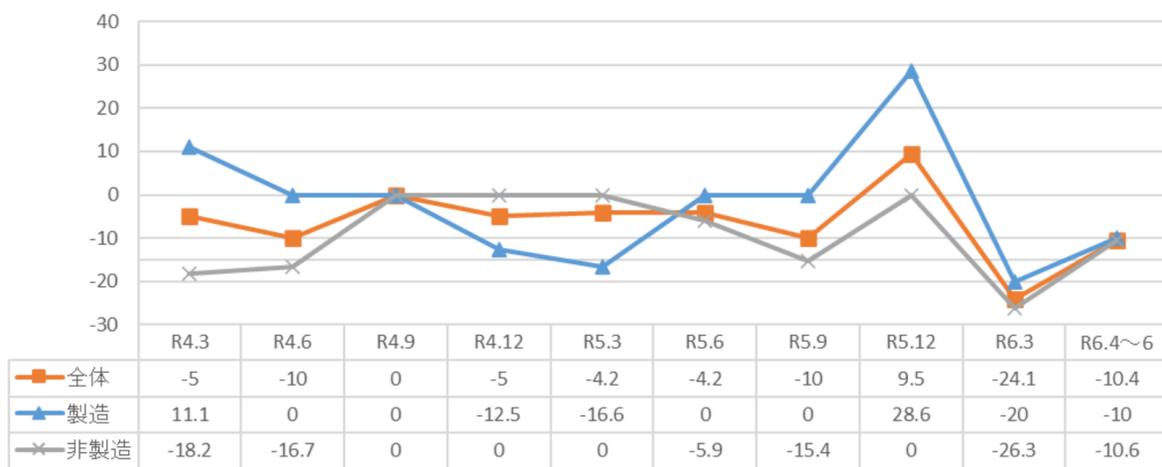
調査概要
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和6年3月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	13	10
建設	5	3
小売	10	7
サービス	16	9
合計	44	29

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



3月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は48.6ポイント好転、非製造業は26.3ポイント悪化しました。3月と比べて4月～6月までの見通しは、全体では、13.7ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

- ・輸出量が減少したため(日本酒)
- ・材料費の高騰、円安、受注減少(ゴム製品)
- ・賃金上昇、物価高によるコスト増加分を十分に価格転嫁することが難しい。
- ・家庭菜園、園芸の需要が変わりなく推移している(農園)。
- ・家庭向けの主力商品において、需要回復の兆しが見えてきており、また既存商品や新たなシリーズとして展開している商品などが貢献し増収。一方、引き続き原材料の高騰などの影響もあり、収益面では厳しい環境が継続(食品)。
- ・災害工事が完成して、官公庁の発注が減った(建築工事)。
- ・資材仕入価格の上昇により、原価が増えた(建築工事)。
- ・子供の人数が減ってきているため、卒業アルバム、お宮参り等の売上が下がってきている。(写真)。
- ・イベント収益が、昨年と比べて減少したため(衣料品)
- ・天気や気温に左右される業種なので、去年は早くから暖かく、衣替え時期が早かったが今年は暖くなるのが遅い(クリーニング)。
- ・運賃改定による売り上げ増(タクシー)。
- ・原材料・仕入れ等価格の高騰と連動して客単価のUPができていない店舗がある。従業員の欠員等により顧客の取り逃しがある(理容業)。

●令和6年度の業界動向の見通しについて

- ・来期は増加の見通し(精密機械)。
- ・アルコール飲料の消費動向がコロナ禍から一転していることに対応できていないため、業界全体としては下降傾向でありその傾向はしばらく続くのではないかと(日本酒)。
- ・仕入れ価格の上昇が続くと思われる(精密機械)。
- ・社会・経済活動が活性化し、雇用・所得の改善が進む中、インバウンド需要の増加等もあり、景気は穏やかな回復基調。一方、不安定な国際情勢による地政学リスクの影響、輸入コストおよびエネルギーコストの高止まり等に加え、物流費の更なる高騰が続いており、厳しい環境は継続(食品)
- ・横ばい、もしくは下降が予想される(建築工事)。
- ・成人式、学校などの人数が令和5年度より多いので、あがる見通し(写真)。
- ・アフターコロナによる外食への流れ、外出増加とおうち時間の減少による食材売り上げの減少(スーパー)。
- ・4月より仕入れ価格が一段と上昇する。販売価格も上げざるを得ない(精肉)。
- ・少子高齢化で来店率が低くなっているため集客が難しくなるが、来店促進ではなく訪問サービス等の需要が増える一方で、訪問理美容での客単価が非常に低いことが課題になるとみられる(理容業)。
- ・営業活動の機会の低下による顧客サポートが手薄になっている。新規顧客の獲得ができていない(理容業)。

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)